

【報道資料】

奈良県政・経済記者クラブ  
奈良県文化教育記者クラブ 同時配布



令和元年11月6日  
奈良県地域振興部 文化資源活用課  
記紀万葉プロジェクト推進係  
担当：中川、齊藤(内線：2599)  
TEL:0742-27-8975  
FAX:0742-27-0213

古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰

## 「第7回古代歴史文化賞」 受賞作の決定について

「古代歴史文化賞」は、平成25年に創設された賞で、奈良県と島根県・三重県・和歌山県・宮崎県が連携して古代歴史文化に関する書籍を表彰することを通して、国民の歴史文化への関心を高め、豊かな歴史文化に恵まれた各県の交流人口の増加を促すとともに、各県民の郷土への自信及び誇りを醸成することを目的としています。

この度、「第7回古代歴史文化賞」の大賞及び優秀作品賞が下記のとおり決定しましたのでお知らせします。

記

### ＜古代歴史文化賞 大賞＞

「古今和歌集」の創造力」／NHK出版

著者：鈴木宏子（すずき・ひろこ）1960年栃木県生まれ

### ＜古代歴史文化賞 優秀作品賞＞

「埋もれた都の防災学 —都市と地盤災害の2000年—」／京都大学学術出版会

著者：釜井俊孝（かまい・としかか）1957年東京都生まれ

「古代日中関係史 —倭の五王から遣唐使以降まで—」／中央公論新社

著者：河上麻由子（かわかみ・まゆこ）1980年北海道生まれ

「縄文時代の歴史」／講談社

著者：山田康弘（やまだ・やすひろ）1967年東京都生まれ

「風土記 —日本人の感覚を読む—」／KADOKAWA

著者：橋本雅之（はしもと・まさゆき）1957年大阪府生まれ



★ 第7回古代歴史文化賞 受賞作品一覧 ★

賞名	書名	著者名		作品の概要	選定の理由
		出版社・年			
大賞	「古今和歌集」の創造力 	すずき ひろこ 鈴木 宏子	NHK出版 H30. 12	「こころ」「ことば」「型」という3つのキーワードをもとに、『古今集』の歌、歌集全体の特徴を読み解こうとする。特に選者であり、歌人でもある紀貫之の役割を重視し、歌の「配列」に着目する点は、『古今集』研究に長年にわたって取り組んできた著者ならではの。単なる注釈書ではない、『古今和歌集』の世界に読者を導く書である。	本書は、日本最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』を、紀貫之が記した仮名序冒頭にみえる「こころ」と「ことば」、そして歌に共通する表現・着想などの「型」という3つのキーワードから紐解いていきます。その過程で『古今和歌集』に収められたそれぞれの歌はもちろんのこと、歌の配列や巻の構成にいたるまで、編纂者である貫之が緻密に計画し、体系だったまとまりある作品として『古今和歌集』を完成させたことを明らかにしています。また、本書掲載の『古今和歌集』の歌には、理解を助けるための過不足ない現代語訳がつけられているだけでなく、「百人一首」に収められているものが多く採用されており、すぐれた文章力によって、一般の読者が興味をもって読み進めることができる著書となっています。『古今和歌集』が日本の和歌の一つの定型となり、またそれによって生み出された感性や感覚などのさまざまなものが現代にも受け継がれていると説く本書は、単なる『古今和歌集』の概説書や注釈書に留まらず、日本文化論も射程に入れた書籍でもあるといえ、古代歴史文化賞大賞にふさわしい作品です。
		かみい けんこう 釜井 俊孝			
優秀作品賞	古代日中関係史 倭の五王から遣唐使以降まで 	かわかみ まゆこ 河上 麻由子	ちゅうおう ぶんろん 新社 H31. 3	5世紀の倭の五王の時代から菅原道真による建議で遣唐使派遣計画が白紙にされた9世紀末頃までの日中交渉の歴史を、著者の専門とする仏教を切り口に紐解く。東アジアのみならず、アジア全体を視野に入れ、日中関係を概観し、遣唐使派遣による日本の対等関係指向などの通説を乗り越えようとする試みが本書の特徴である。	本書は、倭の五王の時代から唐滅亡後までの約500年間におよぶ日中交渉の歴史を、アジア全体に目配りして解き明かします。そのなかで「天下」は自己中心の帝的世界観のあらわれではなく、単に支配領域を指すだけで、5世紀末から6世紀はじめの倭は王位継承が不安定な状況で使者の派遣を停止したにすぎないこと、有名な「日出ずる処の天子」について仏典を典拠にしており、仏教後進国の倭王が仏法を広める国王の意味の「天子」を称したことに隋の煬帝が不快感を示したにすぎないことなど、通説と異なる新見解を説いています。古代日本の対外交渉を、中国側からの視点も取り入れ、大きな視野から見直そうとしているもので、その意欲的な試みのなされた本作品は、優秀作品賞にふさわしい書籍です。
		やまだ やすひろ 山田 康弘			
優秀作品賞	風土記 日本人の感覚を読む 	はしもと まさゆき 橋本 雅之	KADOKAWA H28. 10	『古事記』や『日本書紀』を中心とする国家レベルの歴史ではなく、「風土記」の記す地方目線（「風土記史観」）を通じて、多様な文化や神話伝承を支えた村里レベルの歴史を探ろうとする。国文学者の視点から、「風土記」から読み取ることができる古代の人々の心性にも触れ、「風土記」の魅力を伝える。	本書は、特有の時間の観念と「村里」単位の空間という二つの切り口から、国家レベルの歴史を記す『古事記』や『日本書紀』とは異なる地誌「風土記」の独自性と魅力を語るものです。「風土記」が行政文書であることを確認したうえで、統一的で通史的な記紀とは違い、各地方の豊かな伝承や文化を記すものであると論じ、地方目線の「風土記史観」の重要性を指摘しています。このような視点で正面から「風土記」を取り上げたものはこれまでになく、優秀作品賞にふさわしい書籍です。